

別記様式

会議録

会議の名称	令和7年度 第2回戸田市DX推進計画検討委員会	
開催日時	令和7年10月23日(木) 午前10時00分～午前11時30分	
開催場所	501会議室	
委員長等氏名	委員長：学識経験者 庄司 昌彦 副委員長：共創企画課長 渡辺 大助	
出席者氏名 (委員)	【行政DXに興味関心がある市民又は市内ICT関連企業在勤者】 Code for TODA 伊藤 利昭 戸田市ITボランティアの会 稲田 隆博 【市職員】 市長公室担当課長(市長公室長) 内山 敏哉 危機管理防災課長 雨宮 博子 行政管理課 仙波 敦雄 市民課長 山道 敏雄 経済戦略室担当課長 長谷川 昌之 生活支援課 高木 健悟 子育て支援課 主幹 尾里 篤史(代理出席) 都市計画課長 今泉 良太 市民医療センター総務課 西口 以佐子 会計課 西口 学 総務課長(消防本部) 仲澤 康之 議会事務局次長 生出 豊 教育総務課長 重信 雄太 行政委員会事務局担当課長 遠藤 康雄	
欠席者氏名 (委員)	総務課長(水安全部次長) 東口 俊博	
説明のため 出席した者		
事務局	デジタル戦略室 佐藤室長、島田課長、菊地副主幹、伊藤副主幹、林主任 インフォ・ラウンジ株式会社 小林氏、下山氏、良田氏、大井手氏	
議題	1.戸田市のDXにおける現状分析	

	<p>2. 先進自治体事例</p> <p>3. 戸田市 DX 計画の目指す姿・全体方針</p> <p>4. DX 推進体制の構築（素案）</p> <p>5. 重点分野と具体的な施策（素案）</p> <p>6. 意見交換・質疑応答</p> <p>7. 今後のスケジュール</p>
会議結果	各議題について、事務局説明のとおり承認 なお、委員からの質疑・意見を踏まえ事務局として対応していく。
会議の経過	別紙のとおり
会議資料	<p>資料 第2回戸田市 DX 推進計画検討委員会資料</p> <p>参考資料1 「戸田市 DX 推進計画策定に係る市民アンケート」集計結果</p> <p>参考資料2 「職員 DX 意識調査」集計結果</p> <p>参考資料3 第3次情報化推進計画進捗状況</p>
議事録確定	令和年 年 月 日

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容・決定事項
事務局	【1 開会】
事務局	【2 議題】 議題1 戸田市の DX における現状分析 議題2 先進自治体事例 資料に基づき、事務局（インフォ・ラウンジ株式会社）から説明。
委員	市民アンケートの結果として、戸田市ならではの特徴はあるか。特に他自治体と比較の結果は。
事務局	防災情報の即時配信など、緊急性が求められるような情報の必要性、スマホを起点にしたサービス設計が有効であること、インターネットを利用していない方の傾向として個人情報の漏洩を懸念している、といった特徴があった。 他自治体との比較では、河川が近くあるという地理的な環境から、防災無線が聞き取りにくいなど、防災や避難についての意見が特徴的であった。また、子育て世帯が多い地域であるので、具体的な要望として、外出の自由が利かない方でも、スマホで便利に完結する手続きへの要望や、UI の整備といった要望があったことが傾向である。
委員	市民アンケートについて、調査方法が郵送とウェブフォームと LINE とのことだが、回答数の内訳は？
事務局	回答者 440 名のうち、LINE26%、郵送からは約 73%になる。郵送からウェブフォーム経由で回答いただいたのは、約 40%である。
委員長	市民アンケートの結果として、60 歳以上の回答者が約 50%と年齢が高めな印象である。もう少し子育て世代が多ければ、デジタル化を希望する回答が多かったのではと感じる。 では、職員アンケートで、戸田市ならではの突出した回答はあったか。

事務局	<p>職員アンケートの他団体との比較については、他団体からの共有許可が得られたら比較が可能で、調整を進めてまいりたい。</p> <p>他自治体と戸田市の全般的な傾向の比較としては、良い点として、戸田市は学習意欲や研修参加意向が高いことがあげられる。一方、職員ヒアリングについての併せての回答になるが、ペーパーレス化などについては、デジタル化の初期段階フェーズの意見が多く、まだ進み切れていない傾向があった。</p>
委員長	<p>私も同意見である。意欲が高いというのが特徴であるが、テレワークやペーパーレスといった基礎的なところが進んでいない。地方都市の方が、緊張感があり本気度が高く感じる。戸田市は本格的な人口減少がこれからなので、まだ余裕がある印象であり、もう少し危機感が必要かもしれない。</p>
事務局	<p>議題3 戸田市 DX 計画の目指す姿・全体方針 議題4 DX 推進体制の構築（素案） 議題5 重点分野と具体的な施策（素案） 資料に基づき、事務局（デジタル戦略室）から説明。</p>
委員	<p>65 ページの高度専門人材について伺いたい。高度専門人材はそれに該当するような人物を育っていくという方針か。</p>
事務局	<p>高度専門人材について、育成していく観点は重要だが、情報や DX の専門家を一朝一夕に育てられるものでもないとも考えている。</p> <p>育成以外の方法として、国や埼玉県からの人材派遣や民間企業や他自治体で情報・DX の分野で活躍してきた人材の採用（DX 採用）などが考えられる。</p> <p>もちろん、育成も重要な観点なので、人事課と協議を行いながら確保と育成の両方の観点を持って進めたい。</p>
委員	<p>データの利活用について地域共創で課題解決とのことだが、具体的な取り組みの⑤、⑥との間に乖離があると思う。どう解決するかの見通しはあるか。</p>
事務局	<p>本市のデータ活用の現状として、アンケートやヒアリングの回答の中では、</p>

	データ活用をしていきたいという意向がある一方、環境整備についてはまだ不十分といえる。国の方針でも、データ利活用は重点的に取り組む事になっており、計画期間である5年間という期間の中で、地域課題解決に向けた取り組みができるよう進めてまいりたい。このような観点と方針に基づき、資料のとおり整理した。
委員	自治体フロントヤード改革の言葉の定義は？
事務局	住民と行政のコミュニケーションのサービス定義の仕組みを改革し、窓口業務の改革を実施していくという取り組み。従来の、市民が窓口に来て書面を書いて申請するといったやり方から、より便利になる形を想定したもの。
事務局	多義的な用語で自治体ごとに定義が異なる。総務省の自治体フロントヤード改革ポータルによると、自治体フロントヤード改革とは、マイナンバーカードを活用した、自治体と住民の接点の多様化・充実化、窓口業務の改善などを通じて、住民の利便性向上と職員の業務効率化をはかること、両者の業務効率化を図るという定義がされている。住民の方との接点となるようなもの全て含む概念として、総務省は整理している。窓口やオンライン手続き全般としての広い定義と捉えてほしい。
委員長	自身も携わっている総務省の自治体DX推進計画の取組事項の筆頭に自治体フロントヤード改革の記載がある。窓口で手続きをワンストップで実施していくことと、オンラインで手続きができるという両側面から進め、来庁の手間を省くのが目的。実施に当たっては、マイナンバーカードとの紐づけや、オンラインでのデータ連携などが必要となる。バックヤード改革も必須である。そのような取組の中で、来庁が省ければ空いたスペースに市民共創スペースを設置するなどができる。こういったことまで含めた広い概念である。
委員	63ページの推進体制について伺う。デジタルトランスフォーメーション推進委員会から出ている「報告」の矢印について説明してほしい。

事務局	戸田市デジタルトランスフォーメーションの推進委員会要項の 6 条に規定がある。デジタルトランスフォーメーション推進委員会委員長は、会議の経過及び結果を戸田市デジタルトランスフォーメーション推進本部に報告するとしており、この場合、行政事務の改善に関することや、その他の事業であっても複数の所属に関わるものは、あらかじめ行政改革・事務改善委員会に報告することとしている。
委員	DX マネージャーについて、部局長または所属長のことだが、どちらになるか。
事務局	現在、人事課と協議中である。決定後、委員の皆様に共有させていただく。
委員	67 ページの⑧⑪と関係すると思うが、職員アンケートを見ると、職員の意見として、ツール導入後の利用方法が分からず、学習意欲はあるが時間がない、といった意見がある。いきなり施策に盛り込むと飛躍し過ぎではないか。
事務局	今後、予定している AI-OCR や RPA 等の導入後の設定や構築を全て職員によって進めるのは困難であると想定される。そのため、システム業者からも協力をもらいながら、スムーズに導入・運用ができるように進めていきたい。一つの課で順調に動き出しができれば、知見も貯まり、他の課にも円滑に広がっていくと思われる。有効活用できるよう工夫をして進めていきたい。
委員	システム調達の経費に関する透明性について。現在、各課の業務システムの予算要求に当たっては、デジタル戦略室から調達における評価をもらい、専門的な知見から過不足ないシステムの調達をしているが、本会議や委員会で経費について高いのではとの意見があった。計画の中で、財政改革の視点からシステムの調達の透明性の維持や向上を要素として盛り込むことなどを検討しているか。
事務局	本市では、様々な課でシステムを導入していてその費用は決して安くなく、

	システム調達の透明性の確保は重要である。透明性についての観点を計画にどこまで掲載できるかは未定ではあるが、委員からご指摘いただいた観点を踏まえて検討したい。
委員長	システムの導入にはお金がかかる現実がある。透明性を高め評価していくことは重要である。
委員	「スマホで完結、デジタルを基本とした行政サービス」の中で、スマホで行政サービスの手続きを完結できる市役所を目指すとのことだが、シルバー世代への具体的な取り組みなどは考えているか。
事務局	スマホ教室や PC 教室等で、高齢者の方々にわかりやすく伝えていくことが考えられる。Code for TODA 様や戸田市 IT ボランティアの会様は、スマホ教室の開催や、スマホ・パソコン相談を実施されている。こういったご活動は、本市の DX 化に寄与していただいていると考えている。また、戸田市シルバー人材センターでは「スマホ楽校」があり、シルバー世代に向けた教室を実施。公民館では IT 相談事業も実施している。市民団体等の方々の取組と併せて、本市としてもアンケートで出てきた課題も踏まえながら、引き続き実施してまいりたい。
委員	オンライン手続きのシステム UI が分かり辛いと諦めてしまう傾向があるので、動線をわかりやすくしてほしい。
事務局	そのように努めていく。
委員長	国勢調査や確定申告でオンライン回答をサポートするという取り組みが他市であった。フロントヤード改革を進めていく中で、紙を用意するのではなく、窓口でオンラインのサポートをするというのは、1つ代替策として挙げられる。
委員長	66 ページに色々な施策があり、令和 8 年から 12 年までの取組だと思うが、こここの具体性が足りない。5 年間にやることとして、少しでも進めば達成し

	たことになってしまう。デジタル宣言を見るともっと具体的だが、抽象度が上がてしまっている印象である。
事務局	今回の会議の中では大きな方向性についてご意見いただきたく、資料のような記載とした。今後、関係各課と協議をしながら、具体的な施策の形に落とし込んでいく。第3次計画でやってきたもの、そこからさらに発展できるもの、国や県の計画に示されていて実施していくべきもの。これらについて担当課とやりとりをしながら、少し難しいかもしれないが目指していくかなければならないもの等も含め盛り込んでいく。
委員長	ニーズや課題を踏まえてほしい。また、どう目指すかのレベルの設定として、絶対達成できるものだけではなく、やや高めのところを目指す方が計画としては良い。達成できなかつたらダメというのではなく、振り返りや補強を行えば有意義である。そのようなことも念頭においていただきたい。
議題6 意見交換・質疑応答	
委員	具体的な施策として「誰一人取り残さない」という言葉が入っているが、実際に実現するのは難しいと思う。できるとこから始めるということが大切である。ひとつの意見として聞いていただければと思う。
事務局	いただいたご意見、承知した。
委員	システム導入の透明化の話があったが、これから更新されていくシステムもあると思う。市民としては更新に当たって費用がかかりすぎないように考えてほしい。
事務局	システムの更改・新規導入どちらについても、しっかりと精査を行って進めてまいりたい。
委員	65ページのDX推進リーダーについて、各所属から選出していき、それを5年間かけて進めるということか。

事務局	②高度専門人材は、国や県からの専門人材の派遣や DX 採用について説明したが、③DX 推進リーダーについては、現状の職員の中から選考していくことを想定している。細かい人数、選出方法等は未定で人事課と協議中である。
事務局	議題7 今後のスケジュールについて 資料に基づき説明。 ※質疑なし

【3 閉会】